

維持管理で安全・安心に寄与

福井県コンクリート診断士会 設立20周年 盛大に祝う

地域のコンクリート構造物は地域の診断士が担う



記念式典

福井県コンクリート診断士会（山川博樹会長）は13日、設立20周年を祝う記念式典を、盛大に開催した。会場は、福井市手寄り丁目の県民ホールで。冒頭、山川会長が挨拶。「地域のコンクリート構造物の維持管理は、地域のコンクリート診断士が担う」と基本理念を強調し、地域社会の発展や、地域の

安全・安心に寄与していく決意を示した。

来賓祝辞は、国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所の橋本亮事務所長、福井県土木部の田中克直理事、日本コンクリート診断士会の橋高義典会長が、益々高まる重要性を示し、活躍にエールを送った。

20年の歩みは、石川裕夏幹事が紹介。全国に先駆けて2004年3月に活動開始。以来、会員の資質向上と、地元自治体への技術支援、他団体とも連携を図ってきた。



山川 博樹 会長

功績者表彰は、宮本

克彦氏の最高出席率と、監査役の出口一也氏の最多講演数を称えた。江波清隆副会長が閉会挨拶した。

続いて、記念講演が行われた。金沢工業大学の宮里心一教授による「市町村の道路橋に対する効率的メンテナンス

ンスへの挑戦」、および金沢大学の鳥居和之名誉教授による「アルカリシリカ反応（ASR）が発生した構造物の全国実態調査と北陸新幹線敦賀延伸工事でのフライアッシュコンクリートの実装」を聴いている。

質とともに、量にこだわり

初代会長（7期14年）の石川裕夏幹事が、研修会を年6、7回開催し、通算134回を数える意義を示した。

「質とともに、やはり量が大切。現場見学、地域の構造物の劣化状況や補修・補強工事に関する理解

を深める。また技術交流会では業務経験を発表し合い、さらに理解を深め広げると、好循環を力説。福井士会は17年3月には、福井県道路メンテナンス会議（国交省、福井県など）と道路施設の点検・診断等の支援に関する協定を締結している。

現場見学や技術交流、研修会は130回超え

記念祝賀会も開催した。山川会長が挨拶し、会員同士のフラットな関係性が魅力と誇った。石川、富山、島根、奈良の各士会長らが祝辞し、兄貴分の福井士会に敬意を表し「私たちも、後に続きたい」と連帯感を示した。余興では、福井士会の歌が披露され、祝賀ムードを盛り上げた。



宮本氏と出口氏を表彰

功績者を表彰